

授業概要

本講義では、現代世界における危機の要因の一つとなっている環境問題について、経済学的アプローチによる概説をおこなう。その際、まず「環境」とは何か、「環境問題」とは何かについて概観した後、それらに対する経済学的分析の手法を紹介する。つづいて、日本やEUにおける環境ガバナンスや環境政策の手段など、環境問題をめぐる現状を俯瞰する。最後に、福島原発の爆発事故で典型的にみられた、地球規模で放射性物質による汚染をもたらす原子力発電の問題点を把握した後、エネルギー資源をめぐる現状を検討する。

授業計画

第1回	イントロダクション：環境経済論の全体像
第2回	環境経済の課題と方法（1）：環境とは何か
第3回	環境経済の課題と方法（2）：地球規模の環境問題
第4回	環境経済の課題と方法（3）：環境問題への経済学的アプローチ
第5回	現代資本主義と環境破壊のメカニズム（1）：人間と自然のあいだの物質代謝
第6回	現代資本主義と環境破壊のメカニズム（2）：廃棄物の経済学的分析
第7回	現代資本主義と環境破壊のメカニズム（3）：資源・環境の収奪と放棄による自然破壊
第8回	環境ガバナンスの現状（1）：日本における環境ガバナンス
第9回	環境ガバナンスの現状（2）：EUにおける環境ガバナンス
第10回	環境政策の手段（1）：環境政策の手段と選択基準
第11回	環境政策の手段（2）：ポリシー・ミックスの環境政策
第12回	講義の中間総括と中間試験
第13回	原子力発電による環境破壊
第14回	エネルギー資源をめぐる現状
第15回	講義の総括
第16回	期末試験

到達目標

環境問題の現状ならびに環境問題への経済学的アプローチに関する知識を踏まえた上で、現代資本主義がもたらす環境破壊のメカニズムについて理解を深め、さらに日本やEUにおける環境ガバナンスならびに環境政策を把握し、ひいてはエネルギー資源をめぐる現状について把握することを目標とする。

履修上の注意

私語など他の受講者が平穏に受講する権利を妨害する行為は、厳禁する（成績評価の参考とする）。遅刻2回で欠席1回とみなす（成績評価の参考とする）。

予習復習

予習：参考文献の該当箇所を適宜指示するので、予習を心がけること。
復習：授業内容を確認するペーパーを適宜配布するので、復習を心がけること。

評価方法

以下の方法で成績を評価する。
1. 平常点（中間テスト（持ち込み不可）等）：60%
2. 期末テスト（持ち込み不可）：40%

テキスト

教科書は指定しない。
参考文献は以下の通り。
吉田文和『環境経済学講義』岩波書店、2010年。